

Business Bible

い。いまのところ、主流派はそれを抑えようとしてますが、ことと次第によっては、いまに大きな問題になりますよ。

田久保 中国側は経済も軌道修正し始めたようですね。

中嶋 陳雲らの圧力を受け、鄧小平自身、左旋回しつつあります。深圳の経済特区とか市場原理などについての見直し論も強く、鄧小平もあまり強調しなくなっています。そういうときに日本が第三次中国ブームという

試行錯誤はまだまだ続く！

田久保 経済はガタガタ？

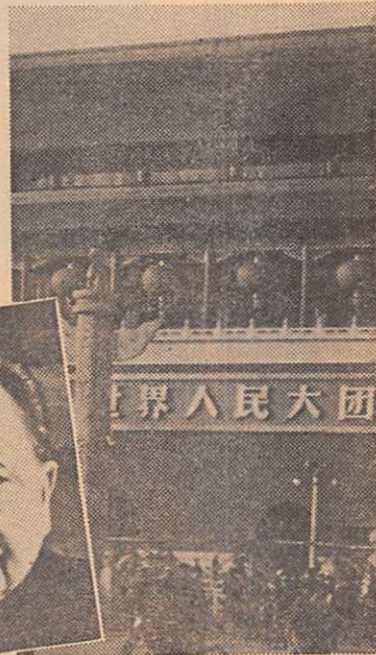
中嶋 対日貿易赤字は増大するし、外貨は不足するし、インフレも都市部では物によって五〇割、まさにガタガタですよ。鄧小平の政策は本来、農村の活性化が土台にな

ことで、ドッと中国に出ていったから、中国経済は消化不良になっただけですよ。

っているんです。人民公社を解体し自留地を拡大し、農民にやる気を起こさせると同時に、農産物の国家買い上げ価格を大幅に引き上げた。農民は喜び、農村は活況を呈したが、国家財政がすごい赤字になったわけです。田久保 そこでインフレ政策？



▲今週のゲストは中嶋嶺雄教授



中嶋 財政赤字の解消のために人民元をどんどん発行した。

田久保 そうした政策の失敗は今後、政争に利用され、試行錯誤はまだ続きそうですね。中嶋 そう思いますね。ワンマン体制の下でも、これだけ大きな不協和音があるのですから、当然、ポスト鄧小平に対する不安も大きい。鄧小平体制はいま陶突き八丁ですよ。

田久保 で、中国の試行錯誤はいつまで続きそうですね。中嶋 中国の一人当たりGNPが二千ドルになるくらいまでは続くと思います。二千ドルを超えれば、社会も安定します。

田久保 いま中国の一人当たりのGNPは四百、弱くらい？

中嶋 二百五十ドルから三百ドル。中国は今世紀末までに一千ドル、二〇四九年に二千ドルにしようとしてますが、これには人口がいま以上に増えないという前提がある。ま、中国の近代化は一世紀のペースベクタイプでしょう。田久保 うーん。日本の一人当たりGNPは一万ドルですから、ちょっと大変ですね。

中嶋 二十一世紀の中葉を過ぎても、やっと現在の台湾や韓国とほぼ同じになるわけですから、中国は中、先進国をキャッチアップできませんよ。それなのに、日本は中国がすぐ近代化するかのような幻想にとりつかれて、一斉に出ていった。

田久保 しかし、それは政府、中国と関係ある人は知ってることだと思っんです。それを承知で出て経済侵略反対、中曽根バカヤローと反発を受ける。これは日本人に中国への不信感を植つけるだけです。中嶋 ええ。

田久保 中国の対外政策の変わりやすさも日中間にミソをつくる原因になりかねませんね。佐藤内閣のとき中国は、反動内閣と批判し、自衛隊も安保条約も認めない発言をしながら、中ソ対立が鮮明になると、今度は自衛隊も安保条約もいいという。最近また中ソが接近し始める

と、日本の防衛費がGNP一割を超えることに反対する……。中嶋 中国はまきれもない共産党政権の独裁国家なんです。この事実を認識しないで、中国的なものを日本の座標軸だけで見ると、ふり回されるんです。中国の世界戦略、対外政策は、内政面の変化から出てくる。しかし、中国という共産党独裁の国家は少しも変わっていないのです。

田久保 そうですね。中嶋 それに対し日本は、常に日中友好とか中国への贖罪感とかで日中関係を形成してきた。ですから、今回の靖国問題、その前の教科書問題にしても、対処の仕方が卑屈になるんです。田久保 日中関係のあり方、その根本を考えないといけない。中嶋 そういうことです。

田久保 さて、八六年の日中関係ですが、どんな年になりそうですか。中嶋 よりギャップが広がるでしょうね。日中貿易もふえればふえるほど、中国が赤字になる構造になっているから、もう限界ですね。これからはたんなる友好ムードや日中「御祝儀」外交だけではとてもやっていかれなくなるでしょう。

田久保 日中関係は「冬の時代」を迎えるということですね。